

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								3.7	
Q1 室内環境					0.40		-	3.8	
1 音環境				2.0	0.15	3.8	1.00	3.4	
1.1 室内騒音レベル		線路が近いので、一部サッシに遮音等級T3サッシを採用		1.0	0.50	4.0	0.50		
1.2 遮音		-		3.0	0.50	3.7	0.50		
1 開口部遮音性能		耐火遮音間仕切り壁を採用		3.0	1.00	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能		乾式2重床を採用し、生活音を低減。		-	-	4.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		乾式2重床を採用し、生活音を低減。		-	-	4.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-		-	-	4.0	0.20		
1.3 吸音		-		-	-	-	-		
2 温熱環境				2.6	0.35	5.0	1.00	4.4	
2.1 室温制御		-		3.0	0.50	5.0	1.00		
1 室温		-		3.0	0.63	-	-		
2 外皮性能		ZEH-M Oriented・断熱等性能表示基準等級5取得予定。		3.0	0.38	5.0	1.00		
3 ゾーン別制御性		-		-	-	-	-		
2.2 湿度制御		-		1.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式		-		3.0	0.30	-	-		
3 光・視環境				2.7	0.25	3.8	1.00	3.5	
3.1 昼光利用		-		3.0	0.30	3.6	0.50		
1 昼光率		-		3.0	0.60	3.0	0.50		
2 方位別開口		南面住戸、東面住戸を配置できるように建物内のコア位置を調整。		-	-	5.0	0.30		
3 昼光利用設備		-		3.0	0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策		-		3.0	0.30	4.0	0.50		
1 昼光制御		庇(上階バルコニー)、カーテン		3.0	1.00	4.0	1.00		
3.3 照度		-		1.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御		-		3.0	0.25	-	-		
4 空気質環境				3.2	0.25	3.3	1.00	3.3	
4.1 発生源対策		-		4.0	0.60	4.0	0.63		
1 化学汚染物質		建築材料はF☆☆☆☆を採用		4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気		-		2.0	0.40	2.3	0.38		
1 換気量		-		1.0	0.50	1.0	0.33		
2 自然換気性能		-		-	-	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮		-		3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理		-		-	-	-	-		
1 CO ₂ の監視		-		-	-	-	-		
2 喫煙の制御		-		-	-	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.7	
1 機能性				4.0	0.40	4.0	1.00	4.0	
1.1 機能性・使いやすさ		-		3.0	0.40	5.0	0.60		
1 広さ・収納性		-		-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応		1Gbitクラスのブロードバンドを計画		-	-	5.0	1.00		
3 バリアフリー計画		-		3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性		-		5.0	0.30	2.5	0.40		
1 広さ感・景観		階高を3150mmとし、居室天井高を2500mm確保。		-	-	4.0	0.50		
2 リフレッシュスペース		-		-	-	-	-		
3 内装計画		建物全体で統一されたコンセプトを採用し、内装を計画。		5.0	1.00	1.0	0.50		
1.3 維持管理		-		4.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		各フロア毎に水栓を計画		4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		フロアごとに水栓を用意。高所作業車の保管が可能な倉庫を計画。		5.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.5	0.30	-	-	3.5	
2.1 耐震・免震・制震・制振		-		3.4	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		-		3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		免震装置の計画		5.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数		-		4.0	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		水セメント比50%		5.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上材の補修必要間隔		-		2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上材の更新必要間隔		-		3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-		3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		水道用高密度ポリエチレン管、硬質塩化ビニル管		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		ステンレス製受水槽		5.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性		-		3.4	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		-		3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		-		3.0	0.20	-	-		
3 電気設備		-		3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		-		3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		電気室等は、浸水対策の為2階に設置の計画		5.0	0.20	-	-		

3	対応性・更新性			3.0	0.30	3.6	1.00	3.4
	3.1 空間のゆとり			-	-	4.2	0.50	
	1	階高のゆとり	階高は3.15m確保	-	-	5.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ	-	-	-	3.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり		-	-	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-	
	1	空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	3.5
1	生物環境の保全と創出		-	3.0	0.30	-	-	3.0
2	まちなみ・景観への配慮		駅間地区全体のコンセプトを踏襲した外観デザイン	4.0	0.40	-	-	4.0
3	地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	-	3.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	樹木を可能な限り計画。	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.9
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	4.6
1	建物外皮の熱負荷抑制		断熱等性能評価5を取得	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用		2~31階で吹抜ボイドを計画し、採光と換気・通風に配慮	5.0	0.10	-	-	5.0
3	設備システムの高効率化		ZEH-M orientedを取得予定。	5.0	0.50	-	-	5.0
4	効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	-	-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	-	-	-	-	-	
	集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.3
1	水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1	節水	節水コマ、節水型便器の採用	4.0	0.40	-	-	
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	-	3.0	1.00	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減			3.4	0.60	-	-	3.4
	2.1	材料使用量の削減	-	3.0	0.10	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	グリーン購入法対象商品を2品目採用	4.0	0.20	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	-	3.0	0.10	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	全住戸の天井においてLGS+PBを計画。	4.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	防水工事材料(プライマー、防水塗料)	4.0	0.30	-	-	
	3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
	1	消火剤	-	-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.50	-	-	
	3	冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.6
1	地球温暖化への配慮		ZEH-M Orientedを取得予定	4.1	0.33	-	-	4.1
2	地域環境への配慮			3.6	0.33	-	-	3.6
	2.1	大気汚染防止	-	3.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善	可能な限り植栽を計画	4.0	0.50	-	-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	条例による駐車台数、駐輪台数を確保。	5.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	-	3.0	1.00	-	-	
	2	振動	-	-	-	-	-	
	3	悪臭	-	-	-	-	-	
	3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	-	-	-	-	-	
	2	砂塵の抑制	-	-	-	-	-	
	3	日照阻害の抑制	-	3.0	1.00	-	-	
	3.3	光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインチェックリストの項目の過半を満たし、広告物照明を行っていない。	5.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	4.0	-	○	○	○	○		-	-	-					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	8.0		○	○	○	-	○	○	○	○	-	○		-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	10.0			○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	-	-	-	-	-	○						
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	4.0		○	-	○	○	○	-							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	7.0		-	-	3.0	-	1.0	-	1.0	-	1.0	1.0	-		
2 まちなみ・景観への配慮	4.0		2.0	1.0	-	-	1.0	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	3.0		-	-	1.0	-	1.0	1.0	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	12.0		-	2.0	3.0	3.0	-	-	-	2.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	2.0		-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	1.0		1.0	-	-										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		-	○	-	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	2.0														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	15.0		2.0	-	-	1.0	3.0	-	1.0	3.0	3.0	2.0			
2.3.3 交通負荷抑制	4.0		1.0	-	1.0	1.0	1.0	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		-	1.0	1.0	-		1.0	-						
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η)	0.5												
U値(W/m2K)		窓システム	-	屋根	-	外壁	-	床	-						
住戸部分	窓システムU値	3.6	外皮UA値	0.3	ηAC	1.3	ηAH	1.0							
昼光率	-														
自然換気有効開口面積率	-														

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	-	/人	病床	-	/床	シングル	-	ツイン	-						
コンセント容量	-	VA/m ²													
天井高	2.5	m													
リフレッシュスペース	-		レストスペース	-											
想定耐用年数	65	年													
想定必要間隔	-	年													
想定必要間隔	10	年													
想定必要間隔	30	年													
階高	3.15	m													
壁長さ比率	-														
床荷重	-	N/m ²													

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

3 設備システムの高効率化

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

外構緑化指数	67%	建物緑化指数	0%												
空地率	60%	水平投影面積率	30%	地表面対策面積率	55%	舗装面積率	50%								
LR1 エネルギー															
BPI/BPI _m	-	断熱等性能等級	等級4を超える	相当											
自然エネルギー直接利用量	-	MJ/年m ²	採光を満たす教室数	-	採光を満たす住戸数	100.0%									
			通風を満たす教室数	-	通風を満たす住戸数	100.0%									
BPI/BPI _m	非住宅	-	住宅	0.72	太陽光	-	太陽熱等	-	蓄電池	-					
LR2 資源・マテリアル															
雨水利用率	-														
特定調達品目	床磁器質タイル	エコマーク商品	-	自治体指定の特定品目等	-										
使用比率	-														
オゾン層破壊係数(ODP)	-	地球温暖化係数(GWP)	-												
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	1												
オゾン層破壊係数(ODP)	-	地球温暖化係数(GWP)	-												
LR3 敷地外環境															
見付面積比	319%	隣棟間隔指標Rw	0.19												
地表面対策面積率	101.0%	屋根面対策面積率	0.0%	外壁面対策面積率	0.0%										
見付面積S _b	4,820m ²	卓越風向と直交する最大敷地幅W _s	70.3	m	基準高さH _b	21.45	m								
緑地	341m ²	水面	m ²	保水性対策面	m ²	高反射対策面	m ²	再帰性反射対策面	m ²						